

A.C.E. KANOYA を目指そう

令和5年度 鹿屋体育大学学生挑戦プロジェクト

事業概要:

学生の叶えたいプロジェクト、実現したい企画を募集し、その実現を支援することにより、学生の自主性、企画力、創造性を養うとともに、キャンパスライフの充実・活性化を図ることを目的とする。

応募件数・採択数:

応募6件、採択5件(国内4件、海外1件)

支援金額:

国内15万円・海外30万円 を上限に支援を実施

採択プロジェクト一覧:


プロジェクト名	代表者(学年はR5時点)
日本刀から竹刀へ受け継がれる伝統技術を学ぶ	武道課程3年 樋口 大和
視覚障害者が大学キャンパスライフを充実させるには	スポーツ総合課程3年 岡 知里
日本トップ選手の三段跳メソッドを学ぶ	スポーツ総合課程2年 山本 華
自転車アワーレコードに挑戦し学生記録を樹立する	スポーツ総合課程4年 伊澤 将也
剣と交差する国境・異国の剣道家との出会いと成長	武道課程3年 高橋 靖登

成果報告会(2回に分けて開催):

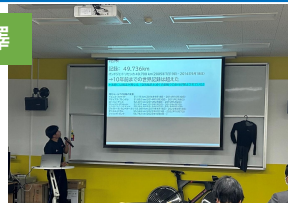
参加者 延べ100名(教職員87名、学生13名)

発表時間 1件20分(発表15分、質疑5分)

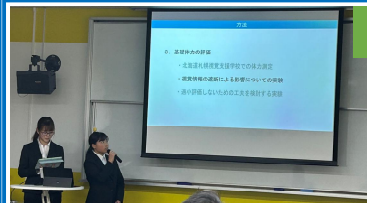
結果
目標: 50.000km
記録: 49.736km
目標との差: "264m" (0.53%足りず...)
←200周回で50km




伊澤



岡



樋口



高橋

現地の剣道家と剣を交えて

- ①礼儀作法を重要視
- ②剣道に対する情熱・献身
- ③剣道競技者人口・指導者不足

海外の剣道家に取って
日本の剣道家のもたらす影響は大きい

鹿屋体育大学の剣道部のような人材は重要

自身とトップレベルの違い 山本

【動作・技術面】

- ・疲労耐力の高さ・重さ性
- ・記録向上、13m超えには最大スピードの驚異的アップが繋がること
- 記録技術のみを課題としていた。
- ・動作が大きき力強い
- 目的とする動作を明確にし、跳躍に活かす
- フォームだけにとらわれ、形づくりを行っていた。
- ・大きな筋肉を主軸に、最大筋力の向上
- 大臀筋・ハムストリングスを主導に大きな力を生み出す。常に高負荷で取り組む。
- スプリント、跳躍において使用している筋肉が違かった。(ふくらはぎ、大腿四頭筋)
- 筋肥大より何層もあげられる重量により耐えられる力をつけていた。
- ・常に全力
- スプリント、跳躍練習において常に力を最大発揮し実際と同じ動きの反復。
- 形や主観、やり切れる練習を行っていた。

プロジェクト実施による成果:

令和6年度の学生挑戦プロジェクト申請件数の増加
R5 6件 → R6 11件

・学生の意欲向上・キャンパスライフの充実・活性化
・A.C.E. Kanoyaの育成に寄与

今後の課題

より多くの学生に成果を還元するために、学生の成果報告会への参加を増やすことが必要。

We welcome your challenge.

次は君の番だ!

You're next